

1. 科目名 (単位数)	聴覚障害者の言語障害指導 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3458 SNMP3458 SCMP3458 SBMP3458						
2. 授業担当教員	須藤 典征		5. 開講学期	秋期					
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション								
6. 履修条件・他科目との関係	特になし								
7. 講義概要	<p>言語の獲得には聴覚の機能が大きく作用する。聴覚の障害があると言語能力の獲得に問題が生ずるのである。言語習得の過程では、聴覚障害を補う補助手段を導入して言語理解・言語表出を支援していくことが必要である。言語理解のためには補聴器などによる聴覚補償のほか、他の感覚経路を利用した口話や手話などの手段を用いる。言語表出のためには発話練習や機器を利用した発話訓練などが行われている。音声言語を媒体にしたコミュニケーションだけではなく、文字など視覚的な情報を有効に利用してコミュニケーション能力を高めていく指導が必要である。生活年齢や発達段階に応じたコミュニケーション支援に向けた取り組み(同時法、口話法、聴覚口話法、キュードスピーチ、トータルコミュニケーション、バイリンガルアプローチ、指文字、手話の使用など)についても検討していく。語彙の獲得・文力の増進・他者との交流能力の促進も視野に入れるとともに、家庭・学校における対応にも配慮が必要である。このような観点について、乳幼児期・学齢期・青年期/成人期・熟年期それぞれの時期の言語指導について学ぶ。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 聴覚の機能および聴覚の発達に伴う言語発達について知る。 2) 聴覚の障害に伴って生じる言語の障害について、基礎的から発展的に学習する。 3) 聴覚障害の補償について学ぶ。 4) 聴覚障害児、幼児、学童、青年、成人に対する支援の実情を学ぶ。 5) コミュニケーションが重要となる聴覚障害者の社会生活について理解する。 								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	聴覚障害者の検査法についてのレポート(1000~1200字)								
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】我妻敏博著 『改訂版聴覚障害児の言語指導～実践のための基礎知識』田研出版、2016。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害者の病理・心理・発達特性について、基礎的知識を身に付けたか。 2. 聴覚障害者への適切な教育について基礎的知識を身に付けたか。 3. 主体的な発言・取組をし、協調性を発揮して授業に参加できたか <p>○評定の方法</p> <p>以下を総合的に検討し、判断する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table> <p>*なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>			1 授業への積極的参加	総合点の50%	2 レポート	総合点の20%	3 期末試験	総合点の30%
1 授業への積極的参加	総合点の50%								
2 レポート	総合点の20%								
3 期末試験	総合点の30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>聴覚は言語獲得や周囲の状況判断にとって非常に重要な機能を担っています。聴覚障害の場合、どのような困難に出会うのかをリアリティを持って、洞察・理解をしてほしいと考えています。加えて、聴覚障害を補償するための方策について広く理解すれば、様々な障害の克服の方策についても理解を深めることができるようになります。適切な環境整備とは何かを柔軟に考えていきましょう。</p>								
13. オフィスアワー	講義開始前後の休憩時間								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	聴覚の機能(聴器の構造、聴くということはどういうことか) 1 耳介から中耳まで	事前学習	耳の構造をネットや書籍で調べておく。pp5~7						
		事後学習	耳の構造を確実に覚える。						
第2回	聴覚の機能(聴器の構造、聴くということはどういうことか) 2 中耳から内耳まで	事前学習	難聴の種類について調べておく。						
		事後学習	難聴の種類を確実に覚える。						
第3回	聴覚障害(その種類、障害の程度) 1 伝音系のケース	事前学習	伝音系難聴について調べておく。pp24~38						
		事後学習	疑似体験の感想をまとめる。						
第4回	聴覚障害(その種類、障害の程度) 2 感音系のケース	事前学習	感音系難聴について調べておく。						
		事後学習	どの発音が聞き取りにくいかとまとめる。						
第5回	聴覚障害(その種類、障害の程度) 3 混合型のケース	事前学習	聞き取りにくい内容を確認しておく。						
		事後学習	疑似体験の総合的感想をまとめる。						
第6回	聴覚障害の補償(補聴器、視覚的情報の利用)	事前学習	補聴器や人工内耳について調べておく。(日本耳鼻咽喉科学会のHPで検索して調べておく)						
		事後学習	補聴器や人工内耳について覚える。						
第7回	聴覚障害とコミュニケーション 1	事前学習	どんなコミュニケーションがあるか調べておく。pp39~60						
		事後学習	多様なコミュニケーションを確認する。						
第8回	聴覚障害とコミュニケーション(口話法) 2	事前学習	口話法について調べておく。						
		事後学習	口話法について確認しておく。						
第9回	聴覚障害とコミュニケーション(手話) 3	事前学習	手話について調べておく。						
		事後学習	手話について確認しておく。						

第10回	聴覚障害とコミュニケーション（トータルコミュニケーション）4	事前学習	トータルコミュニケーションについて調べる。
		事後学習	トータルコミュニケーションについて確認する。
第11回	聴覚特別支援学校の教育課程	事前学習	聴覚特別支援学校の教育課程について調べておく。
		事後学習	聴覚特別支援学校の教育課程について確認しておく。
第12回	聴覚特別支援学校における教育	事前学習	教育相談について調べておく。
		事後学習	教育相談について確認しておく。
第13回	日本の聴覚障害児に対する保育・教育	事前学習	幼稚園設立の経緯について調べておく。pp61
		事後学習	幼稚園教育要領と留意点
第14回	聴覚障害者の社会生活上の問題	事前学習	聴覚障害者の裁判事例を調べる。
		事後学習	裁判事例について考える。
第15回	聴覚障害児の学力と授業	事前学習	どのような教科指導が難しいか考えておく。
		事後学習	全般的な留意点についてまとめる。
期末試験			